

## めざせ「いきいき 明治っ子」

～ はきはき どんどん ぐんぐん ～

### いざというとき 大切な命を守るために

昨年末に、上越北消防署員から来ていただき、5・6年生が救急法の講習を受けました。また、1月の職員研修でも救急法の講習を受け、いざというときの備えについて学びました。もし、目の前で家族や友達が倒れ、意識を失ってしまったとき、命を守るためにみなさんは対処できますか。DVDを見たり、お話を聞いたりして知識はあっても、実際に胸骨圧迫とAED操作ができなければ、命を救うことはできません。今後、実際の生活で万が一、救命処置が必要なケースに直面したら、まわりの人と協力しながら、学んだことをぜひ役立ててほしいと思っています。

救急車を呼んでも到着までに全国平均で約9分かかるそうです。明治地区は上越北消防署の管轄で距離が遠いため15分以上かかるということです。その間に、一刻も早く対応し、命をつなぐリレーを行うことが、その人の命を救うことにつながります。

ご家庭においても、時々救急処置について確認し合ってみてください。



5・6年生 胸骨圧迫の実習



職員 AED操作の実習

#### 救命処置のポイント

まず近くの人を呼び、119番通報で救急車を要請し、同時にAEDを手配する。次に胸骨圧迫を絶え間なく行う。一人でずっとやると、疲れて効果的な胸骨圧迫ができないので、交代しながら続ける。胸骨圧迫のポイントは

- ① 1分間に100～120回
- ② 胸の真ん中を約5cm押す（強く）
- ③ 押したら戻す 合言葉は、「強く・速く・絶え間なく」

1月28日（火）の昼休みには、事前予告なしの避難訓練を行いました。今までは担任の先生が近くにいる中での避難でしたが、今回は周りに大人がいなくてもしっかりと避難ができることを目標にしました。非常放送の際、静かに話を聴き、速やかに避難することができましたし、避難場所の体育館で遊んでいた6年生が、率先して避難してきた児童を整列させるなど、今までの訓練の成果が大いに現れました。とても素晴らしかったです。講評の時にも話したように、尊い命を災害から守るために、避難訓練の時だけでなく、普段の生活の中で人の話を真剣に聴く習慣や防災への心構えをしっかりとってほしいと思います。



非常扉を使って避難する1年生

# 学んで道を知る

人生まれて学ばざれば 生まれざると同じ

学んで道を知らざれば 学ばざると同じ

知って行うこと能わざれば 知らざると同じ

二宮尊徳 遺訓より

長野県の伊那食品工業という日本一の寒天メーカー会社の会長である塚越寛さんが、今までの会社経営の中で学んだ「道＝人のあるべき姿」の話です。

塚越さんは、会社を含めて、人間の営みのすべて（たとえば、学校や病院、組合や協会をつくることも、農業や商業を個人で始めることも）は、自分と周辺の人々、さらには地域や社会の多くの人々の「しあわせ」のために設立されるのであって、それ以外の目的はあり得ないと言っています。そして、会社の目的は社員のしあわせづくりだと信じ、年々働く環境をよくして、所得が上がるような経営を心がけ、50年間続けて「増収増益増員」という結果を出してきました。

その中で、塚越さんの自慢は、「社員が正しく親切で、公共のことに対し協力的であって、社会人として立派である」ということです。伊那食品工業の近くでは朝の通勤時に渋滞が起きます。社員が会社に車で右折して入ろうとすれば渋滞がさらに大きくなってしまいますから、社員は通勤時に右折禁止なのだそうです。左折して、500メートル以上遠回りをして信号のある交差点で方向を変え、左折して会社に入ることをみんなが守っているのです。地域の公園の草取りを会社の活動として行うなど、他にもいろいろな世の中に迷惑をかけない習慣、社会に奉仕する習慣があるということです。

塚越さんは、「人に迷惑をかけないことを立派というのですよ。できたら単に迷惑をかけないというだけでなく、少しでも他人の役に立てる人になりましょう」と、ことあるごとに社員に話すそうです。その結果、「理屈を言っている間に一本でも公共の場の草を取る人になりましょう」という考えが、会社の中に定着したということです。

わたしたちも学校を取り巻くすべての人々が「いい学校だ」と言ってくださるような学校づくりを目指しています。これからも学校と家庭・地域が団結して、しあわせをつくり出していきましょう。



一生懸命雑巾がけする児童



自主的に壁の汚れを落とす児童